

はじめに……	4
日米シニア井戸端会議 熊本側コーディネーター役 長谷川博	4
二 日米シニア交流プロジェクトについて 佐藤和文 (シニアネット仙台理事)	7
三 熊本シニアネットの現状紹介 福岡壽夫 (熊本シニアネット代表)	11
四 米国シニアエト事情・若尾龍彦(采国SNTOーランスラーニングセンター主宰)	23
【インターネットの原型は黒人解放運動から】 24	
【シニアネットラーニングセンターの紹介】・スライド説明 26	
【ラーニングセンターはPCだけでなく交流の場】 29	
【ラーニングセンターとシニアネット本部の関係】 29	
【機材の寄贈】 31	
【世界のシニアとの交流を目標に】 34	
【ドーランスラーニングセンターの現在】 36	
【采国のボランティアについて】 41	
会場「卒業生でなくてもアシスタントはできるのでしょっか」 42	
会場：「日系人以外の人は受講されているのでしょっか」 42	
【ドーランス周辺】 47	
【月下美人は食べられる】 51	
……………	
五 おわりに……………	59



日米シニアネット井戸端会議IN熊本 報告

はつめぐり...

日米シニア井戸端会議・熊本側コーディネーター役 長谷川博

2000年、仙台で日本社会福祉士会総会があり、分散会で当時私たちが立ち上げたばかりの熊本シニアネットの現状を報告しました。「もし身近になればぜひ地域に作ってみては」という提案のつもりで報告しました。その足で以前から興味を持っていた河北新報の特集記事「夕陽は沈まない」から発展したNPOのシニアネット仙台を訪問しました。折りしも当日は純粹に英語を使うアメリカ人と日本語で日常会話をしている仙台のシニアとの間を通訳を介して行う交流企画のことで、今回の日米交流の世話役である佐藤理事が熱心にお話されていた最中でした。私は時々日米交流はどうなっているだろうと仙台のホームページをよく覗いていたものです。その翌年第二回熊本シニアネット総会の講演の講師として熊本へおいでいただき、前年のシニアネット久留米の前古賀理事長の講演とあわせて、後発である我々のシニアネットの行き先を考えるモデルの一つとなって頂きました。その佐藤理事から昨春秋、熊本も今度の企画に参加しないかという打診があつて、ついては5人ほど人選してほしいとの依頼がありました。私の頭の中には、即座に福岡代表、日高副代表、そしてハンドルネームで葡萄さん、桜さん、阿蘇望亭さんというそれぞれ力持ちで個性ある方々の顔が浮かび、この面々を推薦しました。

この交流の締めくくりには遙か太平洋を越えて米国側代表としてシニアネットツアーのスラールディングセンターの若尾主宰を迎えた日米交流報告会を2月21日に熊本で開催する機会を与えて頂きIT関係に限らずアメリカでの生活を含めてとても興味深い内容での講演を頂きました。熊本からの発信は少なかつたものの、米国・仙台・大阪・熊本の参加者の間で距離を超え共通の日本語で共有の想い出が出来た画期的な実験になりました。

これを当日の参加者のみで消化するということは勿体ないと思いここに記録として残すことを決め、当日の録音を元に再現することにしました。僅か2時間のテープ起こしに初挑戦の私は悪戦苦闘して、2003年2月1日から既に2ヶ月を費やしてしまいました。まずはPDF形式で当日の記録をアップすることにいたします。ネット活動に限らず、参考になることが多いかと信じます。

2002年4月25日

一 日米シニア井戸端会議IN熊本

司会 日高不二彦 (熊本シニアネット副代表)

熊本シニアネットでは大雑把に5名ほどピックアップしまして、日米シニア井戸端会議に参加しています。私自身、メールをあまり書いていないので肩身の狭い思いをしております。今年の2月まで試験的にやりましたよ」と始めて、それがよかつたら、みなさんにお話して全部の方が日米交流に参加できたらいいなあということなので始めたので、実はシニアネットのメーリングにはあまり公に情報を流さないでやってきました経緯もあります。

今日はアメリカシニアネットのトーマスの主宰の若尾先生と、先だって第二回目総会でお世話になった仙台の佐藤先生に来て頂いて講演してもらいたいと思います。では、まず仙台の佐藤先生よろしくお願いたします。

二 日米シニア交流プロジェクトについて 佐藤和文 シニアネット仙台理事

「無沙汰しています。私はシニアネット仙台理事をやっています佐藤と申します。本業は河北新報の電子メディアの仕事をしています。今日はNPOのリーダーとして参加させてもらっています。私が今日伺った趣旨はこのあとに登場して頂く若尾さんの紹介と、日米井戸端会議というインターネット上のプロジェクトについて若干説明するということのが任務です。」

最初にシニアネット日米井戸端会議ですが、これはシニアネットワーク仙台が「数年続けている」ことで、端的に言いつてシニアの方々にはインターネット・コミュニティを使ってやるということ



ができるんですよ」という事例をなるべく具体的に、できれば面白いものになればいいなあということですね。数年間いろいろなチャレンジをしてきました。昨年は、アメリカ人、即ち英語を使うシニアとの私ども日本人、日本語しかつかえないシニアの電子メールでの交流というものを、これは英語と日本語の交流なので普通はできないのですが、そこに翻訳ボランティアをかませまして、翻訳ボランティアは英語を日本語に、日本語を英語に翻訳する。メーリングリストで翻訳しながら交流するというのが非常に回りくどい交流をやってきました。こういったワイルドなことをやってみたり、今回のやつはよく考えると、世界中に日本語を使えるシニアの方がいて、やは

り日本と同じように「インターネット」を活用しようという方がいばいばいっしょにやってその方がたと電子メール「ミニミニ」をつくりたいなあとと思って、始めたのが日米シアタ井戸端会議です。日本側は仙台と熊本、川崎、それに大阪の方々が加わって大体20人ちょっと、アメリカの方は100人ちょっと、西海岸のロサンゼルス、トランスサンフランシスコ中心に100人くらいの方々が参加して去年の秋から電子メールの交換をやっています。先ほど覗いて見ましたらこれまで3000通ほどのメールの交換になっています。それで基本的には同じシアタが「インターネット」を使うと言っても、「インターネット」の普及状態も違いますし、それからアメリカだったら日本語の「インターネット」を動かすのって結構大変なんです。それは若尾さんからお話があると思いますけど、いっしょに「インターネット」、エトを使っているとシアタの書き出しが少しでも面白いものになるといつ実例を紹介できればと始まった交流ですけど、若尾さんと自身、若尾さんと共同主宰として「インターネット」を運営されている鶴亀さんと「自分の方がいいですよ」と。みなさんと「自分な議論をしている中、アメリカのインターネットをできれば継続したい」ということになっています。実際、ペルーの方が最近参加して少いんですけど、ネットワークが広がっていったらいいですね」ということになっています。プロジェクト自体は「ユネール財団からお金を頂いてやっているわけですけど、そのプロジェクト自体は一度締めくくりますが、メンバーがリストそのものは、私たちがボランティアに維持していけばいいまでも継続できるもので、ぜひこれを機会に「インターネット」をを広げられたらいいなあと思っています。ペルーの方へお願いいたします。

で、今日は半日に資料をいっしょに用意してあります。その「これは皆様の活動報告集にお書きになっておられるものかな」とかなり重複するものであります。シアタネット仙台は今、ネットワーク「インターネット」のことなんがあるか図示したもので、我々は平成7年に「インターネット」を介したシアタのネットワークのことと「インターネット」を始めています。その中で「分野」での活動経過を我々が「枚」にまとめたものを配布しています。の「あ」と「あ」をご覧ください。私も仕事をしながらボランティアで関わっているのですけれども、やはり皆様と直接お会いしたりインターネットを使って「ケース」が出来たりするようになります。「アメリカの鶴亀さんの言葉ですが「インターネットとはメールだけでなくいろいろして、今年と年来の友達のようになるといつ不思議なものとしてそれを生かしていって」と面白くネットワークづくりになるのではないかと思っています。

最近、私たちの代表は「バーチャル日本人町をネット上に作る」といって出しています。の「あ」と「あ」なチャレンジが出来たら「い」なあと思っています。以上が大体日米井戸端会議の紹介ですけれども、今日おいで頂いてます。若尾さんと「日米」の「日米」井戸端会議のプロジェクトの中で、電子メールの交流と、今日の「あ」なりリアルに顔を付き合わせてやる交流、顔を突きあわせて交流するといっしょに「あ」の「あ」を同時に「あ」と「あ」も「ユネール財団」に提案して「い」の「あ」ではないかと認められて、活動してきた「プロジェクト」です。その「環境交流をやっている」と「あ」の「あ」においで頂きました。で、先月、私と門脇と「インターネット」担当の女性が「あ」の「あ」に伺いまして、楽しい一時を過ごさなければなりません。私は「インターネット」を早くと言われて「あ」の「あ」は、私たちが

が思いいて帰ってきたんですけど、若尾さんにはこれからのお付き合いのきっかけになればこのプロジェクトも役にたったのではないかと私自身考えていますし、私どもの代表である大内秀明理事長も、最初私が始める時にはいつも首をこねぐらい曲げながら、クエナチョンマークだったので、最近首が起き出して、だんだん前のめりになってきて、このプロジェクトも進みだすのではないかと思っています。それで今後ともよろしくお願いたします。いろいろ雑ばくな話になりましたが、今日の主役は若尾さんです。今日の挨拶はこれまでにいつかごにさせて頂きます。

日高：大体今の佐藤先生のお話で「日米シニア交流井戸端会議」の交流のあり方がお分かりになったことと思います。佐藤先生「このテストケースがうまくいきますと全部のメンバーが加わって大きな輪になって日米交流ができたらなあ」とのことです。

ただ今から熊本シニアネットの代表の福岡先生に当シニアネットの紹介をして頂くことにいたします。よろしくお願いたします。

三 熊本シニアネットの現状紹介 福岡壽夫 熊本シニアネット代表

紹介頂きました福岡です。今日は遠くアメリカからおいで頂いた若尾様ほんとにありがとうございます。

ございました。仙台の佐藤様にはこのプロジェクトを主宰して頂き、いろいろご指導頂きました。ありがとうございます。今後ともよろしくお願いたします。

今日聴衆の皆様方は大部分が我々の仲間のシニアネットの方ですので、シニアネットの現状を紹介するとまたかと思われるでしょうが、それは辛抱してお聞きください。

我々のシニアネットがどのような活動をしているかを遠くアメリカからいらっしやった若尾様や仙台の佐藤様に紹介して、若尾様のお話の前座を勤めさせて頂こうと考えています。

(スライド開始)

熊本シニアネットの目的でございますが、我々はかなり高適なことをあげています。「高齢者の孤立をなくし、生き甲斐の創造をはかるため新たな文化的・人的交流の場を提供する」を第一にあげています。2番目に「会員相互による研修によって情報技術に関して知識の向上をはかる」、そして3番目が「世代間の交流をすすめる、若い者と年寄りはお互いに理解に努めるようにする」という目的を掲げています。

このようなことを掲げていますが、あまり難しいことは言わずに要するにパソコンやインターネットのことを互いに教えあつて、何か楽しいことをやるうじやないかという、あえていってこんなことが始まりました。

1999年7月に始まり10月に総会を開きました。以来毎年200名ずつ増えて、今年3年ちよつと経ちまして、入会者が660名くらいになっています。唯これは入会をした数で、当然脱会者もいます。年齢



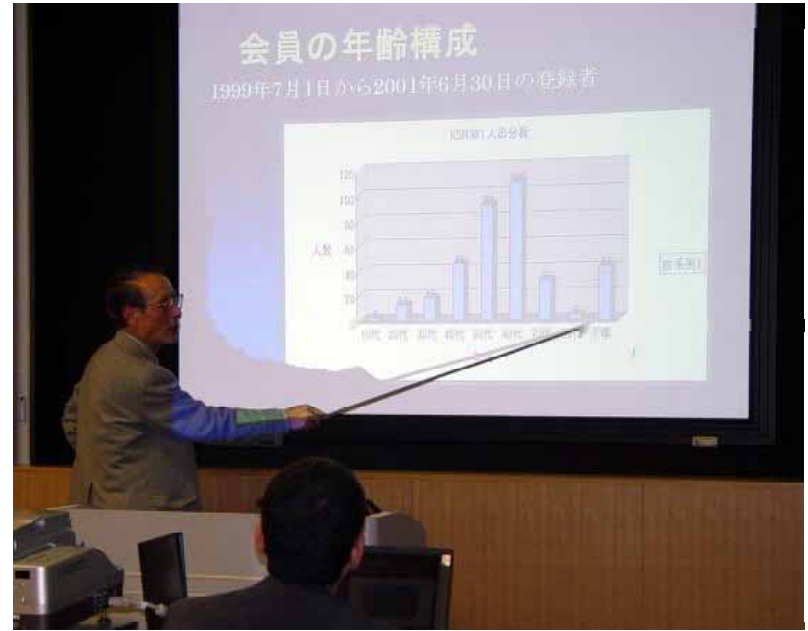
構成では、50代、60代が多くてあとティーンエイジャーもおり、80代もおられます。会員の性別は、3分の2が男性、3分の1が女性です。だんだんこの頃女性の会員が増えています。住所は勿論九州でも熊本が多くて、あとは九州管内、あるいは近畿や関東管内、海外にも若干おられます。会の活動ですが、情報の交換、教育普及として、パソコン教室をやりました。あるいは会員の交流、オフ会をおこなう。各種のサークルも作っております。ここでも交流をやっています。医療福祉部もありまして、部員にはお医者さんもおられ、保健にかんする相談や健康普及活動を行っています。

社会活動というのは、あまり積極的ではないのですが、講習をやるとか、イベントに参加。熊本県がやるUD（ユニバーサルデザイン）探索をやったこともあります。地域活動としては、県内各地に支部（サロン）というのを設けまして、市内に7カ所あるんですが、できたら歩いて、或いは自転車で行ける地域の人が集まって、そこで情報の交換をしたりコンピュータのことを教えあったりするようなことに今力をいれようとしています。ネットワーク研究会というのは、高齢者のネットワークをどう構築していくか、あるいはそれぞれの高齢者の意識調査を行ったり、依頼を受けて若干のアンケート調査をやったりしています。

それから組織図ですが、事務局がありまして、教育普及、広報（ホームページ部）、保健福祉部などこのような部門を作って、組織立てしていますが、それほどきちんとした組織はできていません。熊本シニアネットも人数が増えましたのでもうすこしきちんとした組織にしなればいけないと思っています。それから、各支部（各サロン）というのがあります。天草から県内、主として熊本市内ですがこのようなものがあります。

これが本部がおいてある嘉島の歩師奇屋です、そこに集まった面々の写真です。ここに教室があり、教育を行ったりしています。これは、各サロンのホームページからとったものですが、これは市の中心部にある神水サロンです。これは天草サロンです。このように

みんな踊ったり（天草ハイヤ節）、コンピュータ以外の交流も行われています。これは黒髪サロンです。熊本大学にあり、主として大学の先生の講義を聴いたり、学生との交流もあるようです。これは龍田サロンで、薬局の2階を借りてやっています。これは長嶺サロンと違って老健施設にあります。あいている日曜日に開き、踊りをやったり、いろいろな趣味の集まりが多いようです。これは帯山サロンと違って主として女性が多く、墨絵をしたり、集まってお喋りされています。これは健康サロン、古い公民館を借り、近隣の人と一緒にやってやっています。会員以外の人も一緒にやっています。これは江津サロン。新しいサロンですが、ここは電気屋さんの2階にあります。今いったように天草に1つ、市内に7つのサロンがあります。各サロンでも何人かの方がホームページを担当されています。ホームページでは月々の行事（予定表）を見ることが出来ます。広報部ホームページでもいろいろなことが書き出されています。



メールマガジンの登録者も600名ほどになると会員把握が出来にくくなっています。最初のころは”入る人、出る人は自由に”とやっていたのですが、去年の8月から会員の登録制度を始めました。「再登録をしてください」とメールマガジンに流しました。当時619名いたのですが、返事があつたのは正会員167人しかなかった。正会員は一昨年から年会費3000円を取ろうということにしました。これは会の運営の資金の一部にすることと会の一員であることの意味を高めて貰おうとの位置づけで始めたわけですが、これだけでなく無料のメールマガジン会員というのでも残りました。メールマガジンには誰でも参加できるが、会の規約に基づいたこと、例えば会の方針の決定、運営に関する意見を述べることなどは出来ないなど一定の制約はあるんですが、いろんな行事には参加できます。このメールマガジン会員として登録したのが104人、すでにメールマガジンから登録された会員が126名。メールマガジンに

はされているが要求に応じて会員登録をしなかった人が202人います。ですから3分の1は会員登録していない。3分の1は正会員。5分の1がメールマガジン会員、そして126人はある程度脱会しているのではないが、あるいはメールマガジンがずると停止になっていて、会員かそうでないかが区別ができない方です。従ってほしい500人くらいが会員ではないかと思いません。

その中で、あまりにメールが多すぎて減らして欲しいという要求で”のんびりメール”というのを作っています。こののんびりメールに登録している方は66人。合わせて500人ほどが登録しています。このなかで主メールの9月から12月までの3ヶ月間を見ても、メールを発信した人は220名おられます。登録はしてあるが全然発信しないもの、(見ているだけ)217人。半分がメールを発信していないということです。のんびりメールに関しては66人の中の48人はただ見ているだけで、発信者は18名しかいない。こういう状況ですのでメールマガジンの登録者500人くらいの中で実際メールを書いているのが220名くらい、そういう形になっているようです。

昔私が調査したことです。が、いったいどのくらいメールを出しているか4分の1(25%)の人が1回だけしか出していません。5回以下の人、これが半分を占めています。中には100回以上の人も2%、3%あります。

私はシニアネット久留米にも参加していますが、青いのが熊本で、赤いのが久留米です。スライド図示>、比べてみると久留米のメールマガジンも発信については大体同じ傾向です。ここからメールの中身ですが、我々は歓迎メールというのを歓迎委員から入会した人に出しており、これがあるいろいろな評判でして、「私も会員になつたなあ」と感じられるようです。

これは「メールで尋ね人」がでて探したという例です。こういうケースもあります。これは一昨年9・11ですかアメリカのブッシュさんがアフガニスタンへの報復爆撃やるうというのに反対しようというメールに流れまして、ニューヨークタイムズに広告をだそうと、そういうキャンペーンになりました。われわれのメールマガジンだけでなく全国で賛同した人

達がメールでやりとりして100万円以上の金を集め広告をだしたのですが、結果はあのような状態になりました。今回のイラクの問題でも我々としては、何かやらないといけないと感じていますが実現はしていません。

メールの問題での対策については、着信メールが多すぎるという問題もあつたんですね。それでさつき言いましたようにのんびりメールというのを作りました。会員への通知とかは届くのですが、書く人は20人足らず。その場合でも書く人はメインと兼ねて書く場合が多く、大部分は主メールで役員が書いてる場合が多いので、実際のんびりで発信する人は僅かです。

メーリングでは面識がない人ばかりですので、メールの中で意見の対立が時々あります。顔を見合わせて話すとそれほどでもないことですが、メールの中で少しギスギスしている。それで意見をやりあう、そういうことも年に何回か起こるんですね。顔を合わせるとそんなことはなくなるんですけど、各サロンで顔を合わせるとか、オフ会に参加して、それらを無くしていくということも重要です。メールの文書が堅かったり、文字が活字体であることで馴染めないということからくることもあります。そんなときは顔文字を使うなどして和らげることも考えられます。

メールを出すのは特定の人になつてしまふ問題があります。それは仕様のないことだと思えます。見ているだけでいいよという場合もあります。

いままでもメールのことをお話ししましたが、顔を見合わせてやるオフ会についてちょっとふれてみたいと思います。

これは去年の総会の時に行いましたシンポジウム「夢と健康を語る」*。これは前

* 「夢と健康を語る」 <http://ksn.cool.ne.jp/of/4-soukai/4-soukai.htm>

会長の旗野先生（医師）と健康保険部の板井先生、お医者さんです。私がコーディネーターをやりました、いろいろ面白いお話になりました。

パソコン教室も実際色々やっております、「シニアがシニアに教える」ということをやっています。古いパソコンを買ってきて部屋が一杯になっているんですよ。

で、専門家の人に来てもらい、インストラクター養成講座をやりました。この結果かなりの方に受けてもらいました。これは県からの要請で精神障害のある方のパソコン教室です。誰も行ってくれる人がいないからシニアネットで作ってくれないかという話がありまして、3ヶ月間講習に行きました。

これは博物館の「講習です。これにもシニアネットの多くのメンバーが講師やアシスタントとして参加して講習をやっています。これはイベントで2002年の10月に情報化展* というのがあります。県からの依頼があり、ブースを貸してくれまして、シニアネットの紹介をしたり、テレビ電話の実演をしたりしました。

これは、長谷川さんが主にお書きになってますが熊日新聞の「お助け塾」* という、「パソコンピポパネット」欄に毎週いろいろ情報を出すというのをやっています。

これは朝日新聞「マイチョイス」* というところに掲載されたアンケート調査です。パソコンは何がいいかとか、旅行にはどこに行くかというようなアンケート調査をやってお金を少し頂くなどをやったりしました。

これはつい先日2月4日にやりました新入会員の歓迎交流会の様子* です。これは新入会者です。去年入会された方、こちらは古い・昔からの人達です。でこれは去年の花見の様

* 情報化展 <http://www.ksn.kaos.ne.jp/news/jyouthou.htm>

* 熊日新聞の「お助け塾」 <http://www.kumamichi.co.jp/it/otasuke/oback.html>

* マイチョイス <http://www.ksn.kaos.ne.jp/news/asahi/asahi12.htm>

* 新入会員の歓迎交流会の様子 <http://ksn.cool.ne.jp/of/kouryuukai/kouryuukai.htm>

子*です。いろいろなオフ会をやりませんが、これは天草支部を開設*したときみんなで出かけた時の様子です。女の人たちだけが集まって行うオフ会もあります。男性は入れないです。あ、何人が男性もいるようです。顔を見ると誰かわかります。アツシー君というんですか。逆に男ばかりで料理を作ったりして女性陣をもてなす会もあつたりしています。これはデジタル写真の品評会です。デジタル写真をいろいろ撮つたりされる方もいらつしやいますので、その時の写真です。

俳句の方も同好会誌を出したりしています。これは「緑川」という同好会誌です。これは釣りクラブが太刀魚釣りに行ったときの写真です。かなり釣れているようですね。これは去年から新しく作られたハイキングクラブで人気があります。高齢者のハイキングクラブ*はあちこちで人気があります。山高さんという方が非常に熱心にお世話されています。もう少し近回りの「龍田山」散策クラブがありますが、これはハイキングまで至らない人が集まってやっています。毎週1回くらい近くの山（龍田山*）に登ろうという会です。これは囲碁クラブ*です。私もここに入っているんですが、いろんな所に行つて対戦します。これは恵楓園（元ハンセン氏病の方の入所施設）に行つて入所者と碁を打つたりしています。でそういういろいろなことをやりましたのでやさしい街づくり*に貢献したとして、県知事さんから表彰状を貰つたこともあります。熊本シニアネットに賞品として時計をもらいました。一昨年のことです。

- * 花見の様子 <http://www.ksn.kaos.ne.jp/asobu/ofu-20023a.htm>
- * 開設 <http://www.ksn.kaos.ne.jp/asobu/amakusa/amakusa.htm>
- * ハイキングクラブ <http://ksn.cool.ne.jp/club/haikingu/haikingu.htm>
- * 龍田山 <http://ksn.cool.ne.jp/club/ratudasansaku/>
- * 囲碁クラブ <http://ksn.cool.ne.jp/club/igo/index.htm>
- * やまの街づくり <http://www.ksn.kaos.ne.jp/news/kind.htm>

というわけで大まかな紹介になりましたが、「高齢者こそIT革命」が必要というわけです。私は考えますに、ある程度興味を持って楽しみながらやること、これをやらなければ駄目だと、あまり肩肘張つてはいけなと思います。もうひとつメールで孤独な高齢者がある程度、慰めを感じることができるといふことがございます。情報の発信、受信ではありすぎるとまた困りものです。その中でも情報の選択もある程度必要だと思ひます。またメール以外にもオフ会など交流活動も盛んにすることが我々のネットに必要なことであります。

その中で、シニアの多様性、一つの価値観にとどまらず、いろんな経験をした方が沢山おられます。それぞれキャリアを持ってられますので、その多様性、それぞれの特性を生かした活動が出来るのではないか、これをうまく生かすことがシニアネットにとって有利な点ではないかと思ひます。

ただ輪に入るきつかけがなかなか掴めない。まあいろんなメディアから情報を得たり、隣近所の人から口コミで入会されたり、こういう会議があるときに誘つて、輪に入るきつかけを作つていくことが非常に大事です。そのようないろんな活動をやるきつかけとして、何かやるぞ！という旗振り役も必要です。ただ、これだけではいけないのです。じゃあどういう形でやつていくか、こういう纏め役というか整理する人たちも必要です。こういう形のリーダーを養成することがネットづくりの上で大切なことかと考えます。

最後に書きましたイベント性のことでは、「わっ」とやることにはすぐ集まりますが、それを続けていき持続性として細長くやつていくことは、また一つの技術がいると考へています。なかなかこの持続性をつけるというのも大変なことです。

最後に今後の問題点なんです。メールやパソコン技術を教えあつ、いわゆる学習面とということと、交流活動、一緒に集まって飲んだり、出かけたりする、この折り合いにつてどのようにバランスをとつていくか、一方ではもつと勉強をやるうという方もおられますし、そんなのはほどほどでよいから集まって楽しく遊ぼうという方と、どのようにバラ

入をとっていくかが問題です。

なおオフ会などに参加しているのはある程度元気な人が出てくるんです。いわゆる”サイレントマジョリテイ”声の無い会員、じつとしている会員についてどうしていくか、近回りのサロンでも元気な会員だけがワイワイやっていると隔ではじき飛ばされてしまう。声を出さない会員に対していったいどういう取り組みをするかですね。すでに述べたことですが、メールを出さない会員が半分いるということですよ。極端に言うとサロンなんか開いていると元気な人がワーワーやっていることに、1、2回参加されても隔にはじかれる。”サイレントマジョリテイ”・声を出さずじつとしている会員について、元気な人がどういうふうな輪に入れていくか、ちょっと難しい問題です。輪にいれるきっかけづくりが重要です。

我々いつも仲間内だけの活動になってしまいがちですが、もう少し社会活動に目を向けていってそのような活動についても深めていかないとけないと思います。いろいろな意味で我々も社会活動が出来ると思います。その活動にどういう風に取り組んでいくかを考えていかなければなりません。今、佐藤さんのおっしゃられたような世界中のネットワークを構築してそれを広げてゆくことや、国を越えた輪を広げてゆく、そういうのも一つの活動になると思います。大きな活動やもう少し小さな活動でもどういう風にするか考えなければなりません。

そのためには組織の運営が重要になります。メールリングリストを主体としたネットの一つの弱点がもしもですが、組織作りに入力を入れていかなければなりません。そのためにはリーダーという活動家を少し充実しないとなりません。年齢があがってきますとなかなか力が入りませんので、少し若い力を入れていかなないとけません。

次にサロン(支部)をあちこちに作って地域に広げていこうとする中で、本部と支部との関わりを一体どうするかですが、今は支部の独自性を重視するという立場をとっています。今後新しく作るときに地域社会と本部がどういう繋ぎをどうとっていくかということも問題点としてあると思います。勿論活動経費をどうするのかというのも大きな問題です。

皆さん大抵ボランティア活動で無報酬でやってられるんですが、今後も全部無償ボランティアでやっていくのか、あるいは会の運営経費は会費ばかりでまかなうのか、あるいは、何かの寄付をおおぐのか、仙台やお隣の久留米ではNPO法人という形が取られています。今の熊本の力量ではNPOを取って組織化する力はまだ無いと思います。事務的な処理、その他いろいろなことが必要で、それをやって何を考えるのかが必要があります。もう少し自由なほうがいいのではないかという意見もあります。そこらへんも今後の問題です。

一応、ここで前座として熊本シニアネットの現状をお話してあとは若尾さんから、アメリカ、世界の情勢をお聞きしたいとおもいます。これで私のお話を終わらせていただきます。ご静聴ありがとうございました。

司会：福岡先生、ごつもありがとうございます。少し時間に制約されたところもありますがお分かり頂けたでしょうか。うちのシニアネットの代表は何回も聞いているからとしまりにおついででしたが、一つ一つ説明を聞いていって改めて、私たちがこれから活動していくときのポイントとか、一つ一つ話を聞く度に浮き上がっていくような気がします。引き続き、アメリカ・トランスラーニング・センター主宰の若尾様に、日米シニア井戸端会議の交流やその他についてお聞きしたいと思います。先生は愛媛県出身・愛媛県松山といえ、私30年勤めていた電気会社の本社が松山にありまして、なつかしい思い出をしています。経歴紹介(いまいろんなところで、絶大な活躍をされています。それでは若尾先生にばいばい)講演をお願いしたいと思います。どうぞよろしく

四 米国シニアエエ事情・若尾龍彦(米国SNTインターナショナル・インクセンター主宰)



「紹介を受けました若尾でございます。皆様今日は、お忙しいのにお時間頂いております。ありがとうございました。私どもの向いつの活動を説明するといつに参ったわけですが、その他にせうかく来しましたので、私も向いつに住んでそろそろ2年になりますので、アメリカと日本との違いについて自分の体験したごと、知ってる限りではあります。が何でもお話をしていきたいと思えます。それで話の途中で構いませんから何か疑問があったら質問をお願いいたします。私もビジネスで経営セミナーを毎月やっています。すでにセミナーは137回を数えています。少人数にしぼり大体15人から20人でやるんです。講師がいるんですけど、その途中で話してもらってもいいのです。それが終わったあとに、これをテーママガジンスカッションをやることをや

っています。そうすると一方的に聴くと、その時には「いなめ」と思っている話には記憶から消えていきます。しかし自分が発言したものの、質問してやるつもりだったものは非常に考えていきますので心に残っているんですね。ですから、そのつもりで皆様 気軽に参加してください。

インターネットの原型は黒人解放運動から

今お話を聞き、それから一昨日は仙台でお世話になった訳ですけど、みなさんのすごい活動ぶりに想像以上に驚いております。特に熊本のやり方はコトクだなあと思っていますけど、アメリカの歴史の中でいいますと、黒人奴隷がたくさん居た当時ですね、奴隷解放の運動が盛りあがったときに「アンダーグラウンド・レールロード」(under ground rail road)という運動、日本語に直しますと「地下鉄道」という運動がありました。南部から北部にその奴隷を逃がす、南部は奴隷州、北部は自由州なんですね。この自由州に逃げ込むと何かなるという状況で、ただその当時の黒人奴隷というのは、個人の財産ですから、それを勝手に持っていくと「困るんですね。従って追いかけても捕まるといついともめるわけなんです。そうした中でアンダーグラウンド・レールロードは、いついつに働くか、いついつ、奴隷をこの町から向いつの町へその町から次の所へ中継しながら次々に逃がしていくわけです。このホスト役みたいなのが駅長でそれを同行していくのが車掌だとか、そのような形でやってきましたわけです。場合によっては助けてくれる方も捕まるのです。と、こゝろがこの人たちは、次は誰に渡すかは分かっているのですが、全体は一切

分からない。分からないから捕まってもその組織はすべて生き延びるのです。「これが原型」になって実はインターネットが出来ているわけなんです。インターネットは世界中にいろんな「ウェブ」が広がって、それがメインで、それが今だに一つの無いわけです。アメリカと連年の冷戦時代に、ほんとにそのウェブがあれれば、国防総省の命令だけをやってければ(ボートやれば)あとは動かなくなるわけなんです。ね。ところがそのウェブ風にはマタノオロチ(古事記：八岐の大蛇、頭が八つある)ではないのですが、たくさん命令があつて、それがやられてもみんな命令として機能する。そのウェブネットワーク動いていくのがインターネットの構想です。国防としては非常に有効に動くとはいっていいからです。基本的なものはそのウェブのウェブをいって、いろんな学者などが研究をして成果を分かちあって発展していったように聞いております。そのウェブの「熊本のやり方」が、まさに「いろんな活動の組織があつて、サロメがどなたも出来ていって、かなりの独自性を持ちながらやっている」。私は他のほうで、毎月「ウェブ」ナメメントをやっているのですが、「これも百七十何回とやっているんですが、やるたびに、今月はどの係を誰にお願いで、案内状にも書いてしまつて、本人の「承も取らないうち」で済みます。でもちやんとやるといわれる。いよいよお祭りの行つて、わいわいといよいよ御輿を担いで、のを見せるのも楽しいのですが、実際一番楽しかったのは「拒絶」の人数なんです。ですから何か自分の役割があるウェブが「何かをやるとき」は自分も一番楽しんでいます。それで組織が大きくなります。この方で何かいふのやっていますのですが、自分の所では全体が見えない」となる面白くない。

そのウェブの意味で単位は小さく、みんなが関われるんだけど、全体的にはちゃんとした組織になっている。何かあったら、みんなで動けるよ、そんな組織体だから、力を持つてくるところではないですか。この先例を行っているのが熊本のインターネットの組織ではないかと思つたわけです。

まず私たちがやっていますのインターネットを説明したいと思つています。

【ウェブネットワークセンターの紹介】・スライド説明

私どもがやっているのは「ランス・ウェブネットワークセンター」といふのです。これは「ウェブ」の説明です。「ウェブ」ネットワークセンターといふのは、「ウェブ」を通じて広がるウェブネットワークといふことです。今のウェブは日本も米国も非常にみなさんは元気です。昔の年寄りの「ウェブ」言葉は「おれ合」な感じがします。「ウェブ」については「ウェブ」だ、けれども私は忙しくて、そんな暇はないと言わねばなりません。ウェブ「ウェブ」が「ウェブ」全員(職と金)があるかどうかは知りませんが、日本も最近変わつて、のかわらないのです。日本では会社人間が多くて、会社だけやってきたら、退職した途端に人脈が萎んでしまふ。急速に歳をとつてしまふ。ウェブ「ウェブ」を学ぶウェブ「ウェブ」Eメールインターネットが使えるようになつて、「ウェブ」ウェブネットワークを広げてゆくことが出来る。ウェブ「ウェブ」といふは誰でも使つていける。出来る。ウェブ「ウェブ」の電話の「ウェブ」なものです。ね。道見ますから。特にアメリカの場合少し事情が違つ

ある。女性がアメリカの方には、自分が苦勞したところが分かっているわけなとですね。ですから「私は大丈夫だよ」とゆつくりと丁寧に教える。ないは相手が分かったところを確認してあげなくはけないのです。ね。「いついつをを確認してゆつてくれるのべ」。女性がアメリカに教えるように、非常にわかりやすく教えてくれます。「この仕組みとしては、まずシニアが」を受講し、教えて貰って卒業しますと次の生徒さんに対して、「男子」としてきますが、インストラクターが教えている後で、アシスタントとして手伝います。「これを」としてきます。今言っているのは「いついつ」です。アドバイザーしたり、「この」をしながら受講者の後から補助をすることで「いついつ」は、自分が習ったことは、いついつだったのか」と復習になるたです。ですから「この」を通して「いついつ」として「男子」としてのが自分の身に付いたです。一回聞いただけではなかなか身に付きませぬ。これを繰り返していくとインストラクターになっていく。それから通常の「この」ボランティアとしての供給体制が自動的に出来るようになっていくわけです。

【ラーニングセンターはPRだけでなく交流の場】

（ラーニングセンターとシニアネットワーク本部の関係）

次にラーニングセンターとこのは、パソコンクラスだけでなくシニアの交流の場でもあります。「これは皆さんができておられるわけでも、パソコンの会があったり、囲碁の会があったり。

「婦人ばかりでパーキーをやっておられるのはアメリカではいませぬけど……」(笑)。そういうたものをやっておられるところと、そんなことが活動に「入って初めてほとんど輪が広がっていき、皆様の仲間意識が高まってくるわけですね。じゃあシニアネットワークの本部はどうした」をやつてくれるのだから「いついつ」なら、組織の運営をやつて「いついつ」のラーニングセンター、「いついつ」パソコンで「いついつ」か、その人が「いついつ」をやつていっています。「これは専従も何人かいます。それから外部との交渉、組織をつまかやっていくためには、この交渉が入っているのです。そしてPRです。常PRとして会員確保して行かないと、やはりシニアですから減っていくともあれば、パソコンを習ったから「いついつ」活動にずっと参加するとは限りませぬ。

もう一つ「これは大手のコンピュータ関連会社と交渉してサポートを受けるのです。ソフトウェアの」のディスプレイをお願います。お店の「会員登録」を見せて「私はシニアネットワークの会員です」「と」の「5%とか10%とか」に「いついつ」をわけますね。そうして「いついつ」など。例えばMSオフィスなどもあれば、ラーニングセンターがそれなりのもを「いついつ」買えば、シニアの方には安くない。または無料で入れてあげるとかですね。会社によって「いついつ」の交渉するんです。ですから今回ずっと私は、仙台、熊本、大阪とシニアの交流を行って皆さんと会わせて頂いています。ですが、日本全国に「いついつ」した「シニアネットワーク」が「いついつ」あるとですね。その人たちが繋がって、そんな交渉をやれば「いついつ」が出来ると思います。日立、東芝、シャープ、ソニー、パナソニック、三菱など。様々な交渉して「我々シニアに限らず、いついつ」に「シニア」に「いついつ」で「是非」公認「いついつ」を「いついつ」

ください」といつ交渉はできるわけです。それは是非おやりになったほうがいいと思うし、「これは現実的であり、もし叶うならお手伝いをして、海外も一緒に仲間に入れて頂ければありがたいです。」

それから各ラーニングセンターの教材やノウハウを本部のホームページを通じて分けあう。私どもの例はあくまで報告いたしますが、いろいろな所が独自に自分で努力して良い物を作ったら、それをみんなで分け合いますよ。良い物を作ったらとりあえず本部に提供してくださいということ。そこで見て「これはみんなが使えるなあ」といつどこになつたら、出すのです。我々もラーニングセンターを開く初めのうちは教科書でも最初は相当数のものを頂きますが、あとは勝手にダウンロードしてプリントアウトして作ってくださいということやり方な感じです。

【教材の奇蹟】

新しくラーニングセンターを（作る）ころでは走り出したら自分でやらなければいけないのですけれど、まず最初は本部から人を派遣して、機材、コンピュータ何台、スキャナー何台といった具合に提供してくれる。それだけじゃなく、私たちの場合、東部の方からボランティアで、多少お金が出るのでしょつけど、おばちゃんが飛んできて、一週間ホテルに泊り込みながら、自分で全部箱を開けてコンピュータをセットアップしてPCVを張って準備するんです。ほとんどボランティアで教えるインストラクターを集めまして、インストラクターの訓練をやってくれるんです。あとは地

区ごと交流の場を設けるといつどこかホームページを通じてもやってますけど、たまたま皆が集まって自分たちがやっている現状を発表する訳ですね。それを聞きながら「あそこはあんなことをやっているのか、これならうちにも取り入れていつどこいつふうになるんです。それから、交渉した会社のフェイスカウントのお知らせ「・・・」こんな会社とこんなディーラーが出来ましたから、これについてはこんなフェイスカウントができますよ」といつどこがお知らせできます。それに困った時にはメールなり電話すると「カウンセラーが出来るといつメルिटがあります。」

まとめますと、シブネットの会員になりますと会員登録を発行してくれます。「これはディナカウントを受けるためです。そしてボランティアでモチやインストラクターをすることで技術がしっかりと身に付きます。これは人のためでなく自分のためになるんです。ボランティアも無料会員登録がもらえるので「コンピュータ関連のフェイスカウントが受けられます。これは先ほど申しました。まあこんな風な利益があつて「ボランティア情報」のアドバイスが受けられる。シブですから習っただけでは駄目なんです。」コンピュータを買いたいのですが「一体どのやつなものを買ったらいいのか」といつどこにぶつ物つソフトウエアを入れたらいいのか分からないのです。ですから一応聞いてもらえばそれなりにアドバイスする事が出来る。それだけでなくいつどこをしますと新しい友だちがいっぱい出来るのです。同じく悩みながら習った訳ですから、この人も大きいのです。

そしていつどこで我々は約2000番目のラーニングセンターとして始まりました。まず2000年6

月、一昨年の6月に、共同運営者である鶴亀さんといつ私の友人がおりまして、非常におめでたい名前です。「いついつまで資金を提供しよう」といつ話があるんだけど。はじめYMCA持っていたら、それが「いい」と返事を貰ったのだけにと、丁度改装中で部屋が取れない、それから「日系引退者敬老ホーム」といつ日系人の大きな老人ホームがあるんですけど、そこでやろうとしたんです。すると何かつとも「それはめりがない」となって「じゃあもう一つになったんですが、それは「バーネーション」が入っていて、調べたほうがいいな」といつ機関から資金が出ています。そこに外部の人が出入りするのには駄目」といついつになりました。もうあきらめようとしていたところ私に話が来まして、鶴亀さんに「じゃ私のオフィスを貸しようか。」といいついつから始まったんです。次に7月には本部からインスタクターがきました。そのあとコンピュータ教室を開始したんですが、最初に買ったのは「コンピュータ5台、プリンター、スキャナー各1台といついついつから始まりました。人の方もボランティアが9名、受講者11人といついつころから始めて昨年の12月で1年と4ヶ月くらいで17期生の9名が一応卒業しました。

シニアネット本部が行ったことは、人を派遣してくれて、パソコンの設置をして、シニアネットにはいついつものが、いついついつを説明してくれたり、ボランティアの教育、テキストの供給などをしてくれました。このおおひちゃんがそうなんです。実際に説明したあとちゃんと教えられるか、どんなにして教えてくれるかを体験するんです。で「ここにいる人が鶴亀さんなんです。トー

ランネットといついつは鶴亀といついつおめでたい人と、若尾といつ非常に若いのがやっていると覚えていて頂けるといいかと思いますね。いついつボランティアがいて、いついつの人と後ろにいる2人は「コンピュータの専門家なので、職業もそういついつのことをやっていますので何かあったら小面の面倒を見て貰っています。」「うちから2番目の右にいる人はいまうちの大学院で社会学の博士論文を書いている女性です。次はうちの家内ですけども、皆さん熱心なボランティアの人たちで今でも続いています。。で、まあこの写真は最後に「苦勞をたのむ」といついついつ中華料理屋さんでおおひちゃんに食事を通して上げて帰っていったわけなんです。

世界のインターネットの交流を目標にいついつ

我々の目標といついつは、海外に住む日本人、日系人に「コンピュータクラスによるインターネットの結成を呼びかけよう、そして母国語による各地域同士の「コミュニティ」によりネットワークを広げよう」といつ、日本国内の「インターネット」海外の方々の経験を分かち合おう。シニアの方々のありませう。向いついつ十年とおおひわても、英語より母国語のほうがやじり易いんです。と「これが日本と違い「コンピュータ」買えば日本語が動く」といつ訳にはいがないんですよ。英語なら全部問題ないのですが日本語にしないではいけない。例えば漢字キータといつソフトがあるんですけど、なかなか思いついつに動かないんです。だいたい「マイクロソフトの2000とかXP」はうまくいく。そのころの「多言語機能がある」の「おおひちゃん」といつ日本語が乗るんですけど、子供は完全に英語で息

子や娘と「コンピュータ」を取り敢えずシェアする。同じ「コンピュータ」を使う時、せっかく習ってきたのに息子や娘は英語なんですね。それを日本語でも使えるようにするためにどうしたらよいか悩む訳ですね。それが出来てもあとがなかなか難しい。私も英語で提供されたテキストを元にながらう。自分達で自由に日本語のテキストを作りました。そして全部、ゼロから始めてだんだんメカニクスに慣れてきます。そして次に「ワード・インターネット」を主とした「メカニクス」を全部で24時間、週に2回やりますので全部で6週間(約1カ月半)。それで6週間たったから今まで教えていたインターネットに集まってもらい、今までどうだったか「反省会を行うんです。そうすると「あそこ」ところまでは初心者には要らないのではないっ、」「これはどうしても入れた方がいいんじゃないか?」といったような意見があったり、「スピードはそこをもっとゆっくりにしてあそこを早くしたらいいな」という声があるんですね。そういった反省会をやって、だんだん固まっている形の教科書になってきました。「ラジック」とか、「オーストラリア・フィリピン」など色々な国に仲間がいます。私の友達もいます。そこに呼びかけて「もしやるんだしたら、」私たちのノウハウを全て差し上げますから、是非やってみてください」といって、自分達のネットワークが広がるんです。もし皆様方が「メール・リングリスト」に入ってやれば、白米井戸端会議では今はペルーだけです。ブラジルの様子も、ドイツの様子も、フィリピンの様子もいろんな形で、時々入ってくる。ましてや皆さんがそういった所海外旅行するといったときに、知った人がいると旅とつのは楽しいものです。ですからもっともって世界を広げていきたいと思います」といって、それが「昨日、インターネット」

ーく仙台の大内代表がおっしゃっていた「世界をつないだバーチャルな日本村を創る」といって言葉につながっていくものだと思います。

それから4万人の会員がいるアメリカのシマネットなんですけど、我々のところが初めて聞く英語以外でやる「ラーニング・センター」ですから、「わがもこつまくいけば、韓国語とか中国語とかベトナム語だとかでも同じようにできるきっかけになる。応用できるんです。その「インターネット」がインターネットでも非常に我々に注目して使われています。

「ラーニング・センター」の現在

我々の「インターネット」の「インターネット」を基本「インターネット」もっているかといくと、基本的には、受講生がポランディアに、クラスを通じて友だちを作る。重複しますが、インターネットや「コンピュータ」は絶対受講生のメカニクスに触れてはいけない。「わが不文律」なんです。やさしさを習う方は画面上では出来るんです。けれど自分分は経験してないのです。やさしさを習う方は画面上では出来るんです。一杯指紋が付くんです。「ラジック」。ラジック指を押し付けるの、あとで画面を拭かななくてはならないのです。(笑)「テキストはシマにあった内容に常にアップデートする、それから「コンピュータ」ブレイク時に軽い体操をする。やさしさを「コンピュータ」をやり始める時に夢中になっちゃうと、その間に3時間経ってしまったりします。そのやさしさを「インターネット」の姿勢で、やさしさを

るとあとで腰痛になったりするとです。だからほととほ1時間から1時間半終つてちよつと軽い体操をやるだけです。いふん体は違う。予防になるんです。もう一つ新しい動きとしてシヤパトスエチューデント ネットワークといつて2000人を超える日本から行つてゐる留学生の中の有志が「シニアの方達が困つてゐるときには家まで行つて相談に乗りましよう。私たちがお手伝いしましよう。」といふことになってゐます。使ひ方の問題やハードの問題でも、そのついでにも含めてやりましようといふ動きがあるのですよ。ボランティヤアですから特別な報酬はありませんけど、親元を離れて暮らしてゐるので、家庭料理を食ふさせてあげる、おじいちゃんおばあちゃんの人生活験を聞かせてもらひ、お互いが必要なことを（シヤするやつ）にやればいいのではないかと、新しい動きがあります。

じゃあ仕組みはどうなつてゐるかといふと、シニアネット入会すると年間で40ドル約4千円余りを本部納めます。これがシニアネット本体の運営資金です。それからコンピュータ教室の受講料としては、ラーニング・センターで一番初級の8時間だと40ドル、16時間のコースは80ドル。通せば120ドルを納めて頂きます。もちろん部屋代、コンピュータ、それからDSLを引いたりするのと、これだけではまかない切れません。すけれども、新しいたものを頂いてやってゐます。それと自分達のセンターは自分で盛り立てるといふので、これはあへまでも、ZPARO(非営利組織)なものでありますから、「これだけの金を納めてゐるから、やるだけのことはやして



くれよ」といふのでなく、お金は出してゐるけど、みんなで盛り立てるといふ意識を持って欲しいのです。それからもう一つは、それを含めて常にボランティヤア精神で「このついでに、自分達が使う施設は自分で維持を（きちんとして）ていきたいと思います。」

特徴としては、日本語による授業「です」。「日本のシニアグループと連携をしていきます」、「地域密着型」といふところが、新しい組織は他にないのですから近くの人には来やすいですね。ただ遠い人は、夫婦でしたけどサンディエイゴから通つて来られました。週一回、片道150マイルくらい、キロに直すとな240KM(往復480KM)。それを運転して来ていてですね、それほど熱心な方もおられます。まあ優

秀なボランティアインストラクターと講師陣ですが、今50になつてない方もおられますけど、優秀な方がいらつしやいます。「トチもほぼマンシューマン」で付きますから、他の「ムービーター教室」行くときはやはりシニア向けにやつてくれるところもあるんですが、一台の「ムービーター」を4人位でシェアしたり、「だー」と一律に動いていきますから、とにかく身に付かない。一人一人が納得いくとこまでやつていくというのがいちごらの特徴です。ほかに、沢山の練習問題をテキストに入れてやつていきます。それからメーリングリストに登録したネットワークがある。やがて世界の日本語ネットワークを目指すことになるんですが、「いつ」たことが特徴としてあげられます。

「いつ」に教えていると後ろに「トチ」が何人かいます。これは第一期生のボランティアの先生と生徒です。休憩時には「ムービーター」体操をと「いつ」で実行しています。これが体操です。そして「トチ」が「トチ」ブレイクです。一時間も経つてみなでクッキーだとかお手製で作ってきたケーキなどを食べながらお話をするんです。「これを楽しみで来られている方もいるんですよ。経験豊富なシニアですから面白い体験などが聞かれます。

「じゃあそこまで、今の体操をやってみましょつか。みなさん立ち上がりかけてください。ごく簡単なものだから誰でもやれます。まず足を肩幅に開いて、「いつ」の右手に右手をくっつけ上げて、ばつ力を抜くんです。はい今度は左へきましょ。中略（これを繰り返して）肩を内廻し、外廻しします。首をぐるぐる廻します。まあ反対回し・・・

「……「いつ」までやるだけで随分違うんです。3分くらいですから時間は取りません。予防のためには是非やってみてください。

一応終わりましたら終了証書を出します。「いつ」の「ムービーター」でプリントしただけの簡単なものですが渡します。やっぱり紙切れ一枚にしても貰うと嬉しいのです。貰ったあとはこちらがインストラクター、あちらが「トチ」といつの場合にお世話になった人を両脇にして一人一人写真に収めます。そのあと「いつ」のクラスで「一応全員の場合写真を写すと「いつ」にしていきます。ですからこれが何期生にもあるんです。「これが最近とつたやつです。ちょっとバレンタインデーだったのでバレンタインのカードも一緒に写そうと「いつ」になりました。

カードといえば、うちの家内が折り紙きちがいでいろいろなことをやるんですが、「だべらいい」だったら私も作れるんです。折り紙を実演（）。何か会議で「ディスプレイ」の「いつ」で白熱（？）の暗暁になりそなつた時には「いつ」のを作つて「いつ」は言つてもね・あなた」とか（笑）やるんです。「これは何にでも使えるんです。普段では言えない夫婦の会話「I LOVE YOU」でも愛情表現でも・誕生日オメデトウでも、御免ならいでもいいです。そなたのに使つていくと非常に効果的です。これは「どル札で折つた小トマークです。バレンタインの時には「いつ」の「いつ」です。でもしと知りた方には折り方もお教えします。

会場：生徒さんはシニアでなくともいいんですか

「あねは50歳以上でいいよっか。」

若尾：「もしかするとアシスタントの方がもしれません」

会場：「修了証もつもられましたよ」

若尾：「修了証もつもられましたか・じゃちょっと出してみましょっ」(スライドを逆回し)

若尾：「ああこの方たちは監事さん50以上なのですよ」

会場：「若いですね」

若尾：「あね 向いつの人たちは活動的ですよ。こもそうですけど。習いに来た人で82歳だったり、でそいついつ年でボランティアをちゃんとやっていますよ。」

采国のボランティアについて

さっきやった日系引退者ホームでのことですが、ある人はボランティア時間7万時間ですよ。1日に8時間ずつ、年に300日ボランティアをしたとして年間2400時間ですから7万時間とはすごいですね。(約29年間)

フロアー インストラクターは卒業生だけですか。

ボランティアもいろんなボランティアがあって、ユナクな所では30分だけ抱きしめてやるボランティアだってあるんです。例えば治る見込みのない子供だけが入っている病院があって、そこに行くと30分間だけ、じっとその子どもを抱きしめてやるボランティアだとか。ほんとにいろんなボランティアがあるんです。クリスマスの時期になりますとホームレスがいっぱいいますから、そこに食事を出しますが、そういうところには毎年政治家も来れば映画俳優だとか、スポーツ選手だとか来ます。そういうところをやらなければアメリカでは誰もそれなりの人だと認めてくれないのです。

会場 卒業生でなくてもアシスタントはできるのですしょうか

若尾「もちろんですよ」

会場：「日系人以外の人は受講されているのですしょうか」

若尾：「この前も電話があったんですが、まるっきりアメリカ人の名前だったんですが、問い合わせがありました。ずっと何年も日本にいて、現在70歳だけれど日本語は少し話せる方だったんですが、日本人でなくても受講されている方も居られるんです。それから韓国の人もおりまして別に人種は問いません。そつゆつづつになんか、非常に難しいですね。クフフはファンダメンタルズ・トラスとイントロダクション・トラスがあって、それは上の初心者トラス人は全くマウスに触る

のも初めての人なんです。こちららはワードからインターネットを学ぶもので「こちらの目的と」については「ユーザーに慣れる、いろんな用語も含めてそれまでやっていく。それで」「ユーザーの基本操作が出来る。」「パソコンを起動させて、ちゃんと終了が出来る。」「マウスとキーボードの使い方」「保存の方法。」「インターネットへのアクセスそのといったところまで持っていく。この辺のことを楽しくやっていくために、ゲームを利用して興味を持ってやれるようにしているんです。夢中になって皆さんやっておられます。そのうち出来なかったダブルクリックやドラッグアンドドロップなど自然に出来るようになってくるんですね。そして授業内容については大急ぎでいきますけども、このようないくらフリーで授業内容を示しながらを。回に分けてやります。簡単なグラフィックスも入れて、例えば皆様が引越した場合には「お知らせを出します」といってインターネットの yahoo-map を出して住所を入れたら地図が出ますね。あとそこからそれを自分のパソコンでして、ワードを呼び出して、図を取り出して、「私はここに引越しました。機会がありましたら是非寄ってください」と。インスタクターの方が自分でフォーマットを作って、教科書は「宛先を（松島菜奈子とかなんとか書いて（笑）自分の名前を入れて出すという。こんなことをやっています。今は月 水が基本的には、午後1時半から3時半まで、火木の場合は基本的には4時から6時まで、クラスが増えたら2部制になる。」「同じような形でやっています。」「のあと教科書を作っていくかなければならないのですが、ワードの進んだものとしてエサセル、今みなさんにお見せしているこのパワーポイントの作り方も勉強します。

向うでは個人も全部税務申告しますので、会計ソフトの使い方タイクブックなどを教えています。それからホームページの作成というふうなことをやっていますとしています。私も以前はビジネスとして経営者のための「コンピュータクラスをやったのですが、これはちゃんと引き合ってお金を貰ってやっていたのです。その時に作った教科書の易しいところを一本マインドマップに作りかえています。

それでルルとしては「コンピュータを使い終わったらきちんと電源を切りましょうとか、教室内で飲食をしない」といっつのはお茶やコーヒーをうまくキーボードにほしたりするんですね。それで「いっつことをしない。区切りのよい時に10分位休憩を取る。そして軽い体操をする。椅子やマウス等を元の位置に戻しておくように。それから時々画面を拭いてきれいにする。これが指紋なんです。」「（笑）お茶やコーヒーはセルフサービスするんですよ。」「このようないっつことを説明してオリエンテーションを行います。

・・・せつかくですから、私たちの住むトーレンスという町の説明をしたいと思えます。トーレンスという町はシドニー・トーレンスという人が始めた町です。あそこにドミンゲスというスペインの伯爵がいて、この人が国王から貰った広大な土地があったのです。そこから 2000

ーカーの土地を買って始めた町がトーレンスという町なんです。

まずアメリカがどのくらい広いの広さがあるかといいますと、日本の25倍あるんです。その中で約2億5千万人が住んでいますから、人口では約2倍ちょっと多いです。ですから一人当たりの面積からいいますと日本の12.5倍にあたります。そしてカリフォルニアはどこかといいますと面積では日本の1.1倍で10パーセントも多い、人口が約3,800万人、経済力で国に直すと世界で第五番目、私が行った1981年には7位になっていましたが二位あがりました。ここには88の自治体がありまして、市が88、あとは6つの特別区、ロサンゼルスという市もありますしトーレンスという市もあります。それが全体でロサンゼルス管区、郡というものとまとまっています。うちよつと大きいところを含めてグレイター・ロサンゼルスと言っているのですが、このグレイター・ロサンゼルスで関東平野くらいのは広さです。アメリカでは上院議員は大きい州も小さい州も全ての州に2人ずついるのです。それから下院議員は10年ごとに国勢調査をやりますが、これは憲法に定められていて、議員の数は人口割りなのです。ですから人口は減っていく州もあれば増えていく州もあります。人口で議員の数が(再配分されますから、日本のように鳥取と東京を比べてみますと人口で3倍の投票権の(価値の違いがあるというよつなことはアメリカでは無いのです。今カリフォルニア州は確か54名だったと思います。それでトーレンスという市は、昼間の人口14万5千人(働く人が来ますから)、夜は13万5千人、そこで日本人が一番多いというところで、以前、調査したんですが、日本語を話す小中学校の生徒が2000人もいたといいます。市長

を含めて7人の市会議員、今回こちらに着いたとき、茨城の結城市に親類がいて、丁度良いところきたとライオンズクラブで話をさせられたのですが、聞いたらその市が5万いくらなんです。で、市会議員は何人ですかと聞いたら、もと300人居たんですけど、今一生懸命減らして24人になったといつんですよ。これがトーレンス市は13万5千人で7人ですから驚きです。また、市で以前の消防署と警察署をもっています。自分たちの町(Dorothy)は自分たちが守るといつ考え方なんです。ただ、小さな市はそれだけの消防署や警察を(自分で)持てないので、ロサンゼルス市など大きいところに、じゃあうちはこれだけお金を出しますからうちらも廻してください。火事があった時には、これもサーブিস+サアでやってくださいと、そういう頼み方をします。

トーレンス市は、商業と軽工業が主体となった町で、重工業は来て欲しくない。会社を設立しようとしてもそれをさせないのです。それから建物も建てさせないのです。ですからいついかなどができるんです。向こうへ行きますとその地域によって壁の色は、この屋根は赤色で統一させるとかそれは住民がそうしたいからなんです。そういう規則を作っています。うちの近くのロサンゼルスヒルズというちょっとした金持ちが住む町があります、そこでは馬小屋を造らなければならなりません。馬がいなくても、昔、沢山馬を飼っていて、今でも馬は飼っているんですが、日本の番組でも出ましたけど、そのために信号の柱があって歩行者用の信号を押すと、馬に乗って信号を押すと、高い(2)方所の押しボタンが設置してあるんです。道には全部馬用のマニールがありまして、このよつなものは必要もないのに作らなければならぬのです。それは自分たちの

町を特色のある景囲気のある町に統一したいからなんです。そして季節的には4月の半ばから10月半ばまでは乾期で基本的には雨が一滴も降らないのです。たまに霽雨みたいなものはあるんですがこれが普通なのです。11月から3月まで雨季です。雨が降るとしてもせいせい1週間に1回程度です。ですから人間が使う、洗濯したり、飲んだり、お風呂などや、顔を洗う水よりスプリンクラーで撒く水の方が多いんです。それで水の問題は深刻ですね。今は北カルフォルニアから1本、ロソド川とモンタナ州の他州から1本と3つのアクアダクト(用水路)が引かれています。これがロサンゼルス生命線なのです。そろそろ向こうの方も発展してきて、もう水をやらなと言いついてくるんですよ。なるものだからと思いついてるんですけど、私たちが住んでいるトランスタック町をちょっと写真で紹介いたします。

トランスタック

これはうちの裏庭なんですけど、多少何となく日本風なおいさすんですよ。これは近所のマジサイ、これはお向かごんなんですが、9月以降毎日星条旗があがっています。10月のロソド川の事故の時には半旗になっていました。

「ロソド川の事故はタイルがはげて、あのあんな熱が出たのではないかと言われています。ちょっと余談になりますが、シャツルというのは、飛ぶと帰ってきますね。帰ってきたら、あれは一度全部はいて部品を点検して、場合によっては新品の部品にして、もう一回飛ぶんですよ。

ケットのエンジンのブラスター、あれだけで一機に12本用意されています。それを常にテストをしていて、飛ぶ時期が近づいてくるとその中で1本とか4本とか、一番調子よいのを取って動かしているんです。そうなんですけど、私はそれを見せに賣りにいったのです。行くまでは非常に厳しいですけど、普通日本人は行けません。グリーンカードを持っているか、アメリカン・シティズンシップ・アメリカ国籍がないと駄目なんです。それで行くのが決まると、ビデオ撮るのもいろいろと撮らせてもらいます。その一言いわれたのですが、タイルとは「ジョージ・ジョージ」の音です。ものすごく軽いです。やってみると「ジョージ」の音が「マイル」を手のひらに乗せてやってみたんですが、ガスバーナーで火を近づけても、熱さ何も感じないのです。あれ「マイル」がきつと刺がれたのですね。

この近所にはボートを持っていないお宅も何軒かあります。お休みになると車でも引張っていて楽しむ訳です。それで湖に行くところを上げて下げる施設がちゃんと整っている訳です。これは、お向かごは、海に近いですから、海におりていく道です。あそこには、お向かごの森を出て、お向かごが港なんです。キングハーバーという港です。佐藤さんが来られまして、この場所は今週、火曜日と土曜日なんですけど、朝市とこの場所があるんです。ブーマー・マーズ・マーケットというのがある、お百姓さんが作物を持ってきて売ると、この市場が始まるんです。お向かごの果物や野菜が並びます。あの佐藤さんが手に持っているのは、アーティチョークという朝鮮アザ

ミの食用のやつですが、あれを茹でて剥がすと、食べられるのは、芋のこころだけで、味は空豆みたいですが、これを齒でこいて、ビールを飲むと、おいしい飲み物です。

港に行きますと野生のペリカンが、いっぱいいます。こっぴど挨拶に出てくるんです。真ん中におられるのは、仙台から行かれた門脇さん、シマネット仙台（です）。それからこれは、歌手で、いましたね、ダックスフンドと、いつあだ名で、オリヴァム、ヤードと結婚した、会場から、布施明」といふ声。そう、その布施明さん、いつなつてくると、完全にシマの資格、物忘れ有りですね。その彼が結婚式をあげて、今では、ここは非常に日本人も多く、結婚式をあげるとうろこです。ガラスの教会と、いいます。これを設計したのが、ライトといふ人です。ライトはお父さんと、親子二代にわたって設計家だったんです。帝国ホテルとか、東京駅を設計した人が、お父さんなのです。

これが、ヒアー（港）で海中に大きな杭を打ち込んで、そのつえに遊歩道が出来ています。

ここは、沢山の人が遊歩道から釣りをしています。カリフォルニアに限らず、アメリカでは釣りをするのは許可制なんです。許可証は年間のものと、一日だけといふのがあります。年間のものは、カレンダーイヤーですから、一月一日に買っても、一年間、一月三日に買っても、たった一日で、一年間なんです。いついつ、アー、だとか公共の場所では、一応、タタで釣つて、よろしいといふことになって、います。写真では、週末に限らず、結構賑わっていますね。こつやつて、港に人が、いっぱいあります。このスライドには、ちよつと入れて、ませんが、家には、スキャンも来ますし、マライグマも来ますし、ちよつ

と近くに、行けば、野生の孔雀も、いるといふ、非常に、自然に、恵まれたところなんです。これは、ヒーチで、向うに見える、煙突は、エソソソ（電力会社）の、火力発電所のもので、すね。

それから、アメリカにも、風あげがありまして、風あげ大会では、いろんな風があがるんです。こつこつものや、もつとふぶきかけた風、タイン姿（ももあるんです）。（笑）

人が、こつこつ時期には、いっぱい出まして、沖の方では、こつこつ時期は、言わなごの、です。ヨソトでは、もつと大きな船で、乗組員が、何人も、乗っているのが、ヨソトです。小さなこつこつのを、セイリング、ボートといつたんです。この辺には、アシカが、いっぱい、居て、口向、ほしを、しています。それで、こつこつ人が、集まる所には、大道芸人が、今までは、演奏して、いて、ードルとか、五〇セントとか、買つたんです。最近では、自分たちのCDを作って、買つても、うろつのが、多く、なりました。

アメリカの、独立記念日になると、星条旗だらけです。これは、近く、の、学校の、運動場、なのです、が、こつこつ、も、記念イベントが、行われます。この、時期に、なりますと、この、時期で、なくとも、盛んです、が、こつこつは、誰でも、参加、できる、ウラウラ、ウラウラ、です。犬を、連れて、走る、人や、乳母車、で、参加、する、人も、結構、います。よ、参加者は、もつと、なごも、いい、のです。何が、何でも、勝た、なくとも、いい、んです。また、こつこつ、なごつ、こつ、して、好きな、人、たちが、飛行機、を持って、います、が、自分、たちが、編隊、を、組んで、祝賀、飛行、を、や、っています。

月下美人は食べられる】

家には月下美人がありません。この花は夜の大体8時半から9時頃から開き始めて、朝の4時半には萎みはじめなんですが、非常に良い香りがします。終わったらこの花を冷蔵庫で冷凍しておいて、人が来るとこれを茹でて、おしたしにして出すんです。これは台湾の人が教えてくれたんですが、最近では好評を博しています。

写真を示して「月下美人が木になっている」といつたら大間違いで、うちのリンゴの木に勝手に花をつけているだけです。から・笑」。この日はいよいよ花が出来まして、実際の花はこのようなものです。先ほど花をぶら下げたリンゴの木ですが、リンゴもなります。原種に近いリンゴですが、去年も一本で二五〇個以上ありました。

一〇月の終わりになりますと、ハロウィンとして、いろいろ仮装をやるんです。その時期になると魔女が空を飛ぶんですね。この魔女は墜落して地面にめり込んだと、いつ状態です。こいつ飾りも売ってるんです。これは近所の子どもたちが家に来て「キャンディ頂戴。それでなかったら、卵をぶっつけるわー」と言ってくるわけなんです。このときになるとカボチャをくりぬいて提灯を作るんです。それが終わると、翌朝みんなカボチャを道路にぶちまけてしまふ。

これはそのあとのクリスマス、家々になんか飾り付けをやってますね。これサンタの帽子をかぶったバリーナは今年近所で見つけたのですが、実際は帽子は無いのでしょ。けど、この時期だけ帽子をかぶせたんだと思います。この写真も日本の仲間見せたのですが、非常に好評でして質問がきました。あれは一年中やっているの、何であんなに太っているのか・それからこれは、クリスマスの時期になるとやってきます。警察や消防署で作っているんですが、消防自動車を中心に仕立ててくるんですよ。サンタさんがきて、子ども達を抱いて一緒に写真を撮らせるんです。トランスポリスオフィサーズファンクションとってますね。まあ警察官組合みたいなところがあります。警察の人がサンタさん役をやってますね。それから街々でイルミネーションをやっています。この町では、町中が一斉にやっているんで見に来る人もいっぱいいるんです。最近、日本でもイルミネーションが華やかでいいのが出来ていますが、見ていて私を感じる違いは、むしろ日本はそういう公共の場で大がかりに「わー」とやっちゃう、向こうは一人一人それなりに自分の家でやるというのが違いかなと思っています。日本では個人が家の中であるというのがありますが、この辺が違うのかなと思います。

それから、なんとこの時期になるとお墓も飾っちゃいます。こんなに派手に、クリスマスの飾りをお墓に飾っています。すずきよびへりするでけいじゅう。お墓は土地は広いのですが、壁に納骨する所と、うらもあゑる。

向うにもお餅つきがあります。「これは友達の家で呼んで買ったのですが、一生懸命みんなで「あん」をこねているんです。それから、大晦日になりますと12時を期してとくに若い人達が出て出て出てのちうつにぶっかけ合いをやって、12時1度になるとあたり構わず誰でもひっつかまえてキスしてめでたいでいっしょで、それを狙って行く人もいますしよっけど……まあやっていますよ。12時12分が私たちが住むアパートの街なただけです。」

「この時間の都合もあるでしようからこれで終わらせていただきます。今回はしばらく来まして、仙台、熊本とお話を聞かせて貰って、みなさまが非常に先進的なことをやっておられ、我々も見習って是非そういうことを真似してみたいと思っています。それからぜひ皆様で連携をとって、この間はバクノマクや囲碁の会があったりするけれども、場合によっては有志が集まってロサンゼルス旅に来てもいいのではないですか、仲間がいるわけですから、タダ来るよりもいろんなアイデアが出来ると思います。是非来てください。どうもありがとうございます（拍手）」

司会…ありがとうございます。今日は私たちがこれからうちのシニアネットをやっていく上で参考になるお話をありがとうございます。うちのシニアネットはアメリカ式で非常にいいところ、お褒めの言葉を貰いましてありがとうございます。時間があまりございませんけどごなたかこれは質問しておきたいところ方がありましたらご質問ください。1人か2人……では福岡先生と

しぞ

福岡…アメリカのシニアネットは「ラーニングセンター」的な所を支部といつのですか？

若尾…はいそうです。ただラーニングセンターをやる所がこちらでは電気屋さんの階だったりしますが、例えば大学だったら老人のプログラムがあるところと提携して貸してもらって、そういうところにはコンピュータ関係のプログラムだけでなくいろんなプログラムもある。そういう形もあるんですよ。

福岡…じゃあ パソコンプログラムだけでなく、いろいろなプログラムをやっていっていいものもあるわけですね。

若尾…ただ、「このちうな」コンピュータのラーニングセンターの動きをまとめているのがシニアネットの本部とどうわけです。

福岡…ああ、アメリカのシニアネットの本部がまとめているんですね。はい分かりました。ありがとうございます。

会場…17万ポイント（時間）持っているボランティアの例がありました。そのような方たちが集まってるシニアネットが立ち上がったとある方からお聞きした覚えがあるんですが、そこではボランティアとボランティアとの比重はどのくらいですか？

若尾…もうボランティアといつのは普通の生活の中に溶け込んでいきますので、それで組織を作

るよつなにはありません。例えば「ちんちん」でも、最近では放映されているが分かりませんが、ロズパレードがあります。あれにも私は行きましたけど、全部ボランティアでやるんですよ。うちの近くには病院があります。「この病院ではボランティアが週に延べ400人、そのうち100人が高校生、あとの300人がシニアを中心とするボランティアです。ですから学校も、普通ではやれないので先生のアシスタントをやるボランティアもあります。バザーだとかそういうことをやるボランティアもありますし、ボランティアはいたる所にある。自分たちの「コミュニティ」は自分たちで守っていくという意識がありまして、交通違反などでは罰則を受けたら公共サービスという場合もあって、例えば「パブリックサービス」の時間とかになって、黄色い「ホーム」で砂場を掃除している人とかは「ビーチに行く」とよく見かけます。そういうことで、わざわざボランティアが集まるという杯になり過ぎませよ、そのお話しはぜひ聞いてほしいです。

会場：アメリカでのシニアのニーズ需要はどのよつなものが。もう一点、熊本シニアネットが参加してどんな役割が出来るだろうかの点をあつがいてほしいと思います。

若尾：まず第一点のアメリカのシニアへのべらぶの「インター」の需要があるかどうかという点ですね。「インター」はアメリカの社会ほどフィットする、重要なところはないと思いますね。アメリカはいろいろな人たちが集まった移民の国なんです。いろいろな「ロサンゼルス」へのべらぶの言語が話されていると思いますか？となたでもいいのですが、いかがですか。大体でよろしいですが

..

会場：男性 自信無げの「コンベンション」。

会場：女性「3桁じゃないでしようか」

若尾：ロサンゼルス裁判所のシステムでは、言葉の不自由な方は通訳を頼むことができます。そこでのオフィシャルな正式な通訳の数は1055万語。ですから先ほで会場であつてやった桁なんですね。実際に使われているのは150とか160ともいわれていますが、言葉が違つてはそれぞれ文化的背景も常識も違つたわけなんです。同じ事を言つてもその受け取り方や反応が全部違つたんですね。そういう人たちが一緒になって話す。「ところが「インター」は便利なので、どの人が「キー」を押したら答えは同じなんです。「あれこれを押したらこの答えが跳ね返ってくる」ので答えは誰が押しても同じなんです。おそろしく一番恩恵を受けるのはアメリカの軍隊なんです。命令が出て、それぞれ取り違えて違つたことをやられたら困る訳なんです。ところが「インター」でやると、いろいろな文化的背景があつて全部同じ事をやる。非常に便利な道具なんです。それが「もう一つはアメリカ人に手書きで英語を書かせると非常に下手、4も6も分からないんです。まあ、割以上左手で書く人がいますし、そんなですから皆さん若い頃からタイプライターを使い慣れていて皆さん「インター」に慣れるのは早いです。キーボードの扱いは知っているんですから。そういう意味では「もう一つは世の中になつてきます」といつても「インター」が必要なものになつてしまつていくんです。でも私は使わないんだといつアメリカ人も勿論います。数的には何パーセントといつ数字は私はもつていま

せん、ただど圧倒的にその需要が多いというふうですね。

若尾：他に質問はございますか

会場：日米井戸端会議で熊本に何ができるのだろうか・役割はどのようなものでしょうか
若尾：役割とは・今、井戸端会議をやっているんですがあまり沢山の方が入ってれば、一日に入ってくる量(メール数)があまりに多いと読むだけでたいへんです。できれば世界のいろんな人達とコミュニケーションしたいですね。熊本の方でも参加され、井戸端会議も日米などと言わずに、世界でも地球井戸端会議でもいいのですが、A B C Dグループに分けてその中でやっているグループはこのグループは一つ一つの話題があるというふうになっただけで、これからこれを紹介しておいて、じゃ 私はここに入りたいたか、そういっただけでいいのではないのでしょうか。

海外では県人会があつて熊本県人会というのは結構ロサンゼルスは大きいんです。ですからやはり外に出ればどのほど郷土意識といつのは高まるもんですから、そういう所と話せるのは非常に嬉しいものなのです。やはり熊本が入っているというところで、熊本出身の人、そうでなくとも九州出身の人は、それだけでも親しみを感じることができると思います。それだけでもいいのではないかと思っております。他に何かありますか。

佐藤：今の質問のことで補足をさせていただきます。アメリカではシアマのための市民組織といつかボランティア活動を支援する組織がこつほどありまして、一つは連邦政府で作っているRSPDというプログラムがあり、シアマがボランティアするときにタイマシマ(ボランティア)プログラムがあります。それから団体としては、AARPといつ元々は学校の先生達がリタイヤしたあとに自分たちの相互扶助のために作った組織ですが、これが労働組合以上に大きいといわれる団体としてあります。なおシアマがネットにつながっているのはどの位の割合かと言いますと、あまり数字はないのですが、2年前に日本総研がやった調査で、65才以上の日本のシアマは7%がネットにつながっている。それに対してアメリカでは12%がネットにつながっているといつ数字を私は見たことがあります。実態調査といつことが無いものですからよく分からないかもしれませんが、参考までに申し上げます。

若尾：ありがとうございます。

司会：まだまだ質問がありそうです。が会場の時間が過ぎていきますので、また席を改めてゆっくり聞かれるとよいと思えます。井戸端会議参加の皆様と最後に若尾先生、佐藤先生と握手をして終了したいと思います。みなで握手(拍手) ありがとうございます。

五 おわり

シニア自ら自分たちでその方向を作りあげるネットワークは、中心となるリーダーの企画力と実行力に支えられています。熊本シニアネット福岡代表は日頃から、社会活動にもう少し力を入れるべきだと発言されています。当ネットの究極の目標としての「孤独な高齢者をなくす」ための具体的な展開として顔の見える交流を合言葉に各地域でサロン活動や趣味サークルの展開が活発になってきました。運営委員会で従来パソコン技術中心から、お互いが気遣いあう関係作りというソフト面に少しずつ関心がもたれています。パソコン（キーボード操作）が得意なシニアのために顔を見ながら双方向で会話できるメッセンジャーなどを利用し家にながら世界中の人と画像や音声で交流することを普及してはどうかという意見もあります。シニアの生き方を含めIT技術と人間的交流をミックスした内容が重要になっています。

東京や関西の方が遠方より当ネットに参加され熊本を懐かしがられていたように、今後は世界に散らばっているシニアとの交流が広がることを考えると、この日米シニア井戸端会議はその先進的な実験例でした。この交流を企画主催していただいたシニアネット仙台、とりわけ佐藤様と米国シニアネットトランスラーニングセンターの若尾様、そして交流を資金的に支えて頂いたユニバーサル財団に感謝いたします。

講師紹介

若尾龍彦氏

米国トールランス在住。在米歴22年。ラーニングセンター共同主宰、ビジネスコンサルタント。海外在住者投票運動など多彩な活動をされています。とても話題が豊富な方です。

佐藤和文氏

仙台市在住。「シニアのためのネットワーク仙台」理事。河北新報メディア情報部長。河北新報のキャンペーン企画「夕陽は沈まない 豊齢社会の構築」(1995年)を担当。共著に「もつ」のいのち 臓器移植を考える、「新首都時代」「夕陽は沈まない」むらの工場 産業空洞化の中でなど 福岡壽夫氏

熊本市在住。元九州東海大学農学部教授。熊本シニアネット創設より参加、副代表を経て代表。博物館や福祉囲碁の会など広範なボランティア活動にも参加。